


4. 第8回歴史講演会

12月2日(日) 13:30~16:00
加住市民センターで第8回歴史講演会を開催しました。
第一部は加藤哲講師による『後北条氏の領域支配と滝山城』、
第二部は中田正光講師による『滝山城の池跡 -在地支配の一形態-』
大阪市、日進市(愛知県)、横浜市、飯能市など遠方からも含め100名の参加があり、講演会終了後には「次の講演を期待します」との声が多く寄せられました。



加住市民センター



加藤 哲 講師

中田 正光 講師

講演会の様子

5. その他

(1)忘年懇親会

12月2日(日)江戸ッ子鮎(八王子市加住町)にて忘年懇親会を行いました。懇親会の冒頭で、会員の加藤庄之助さんの腹話術による「滝山版・吉書の儀」が披露されました。



領主の北条氏照様が百姓の代表に酒を注ぐ 隣には僧侶がいる



忘年懇親会の会場



昨年のペーパー甲冑組立て作業

(2)ペーパー甲冑の組立てにご協力ください

昨年度の滝山城跡散策ツアーに使用して好評だったペーパー甲冑を新たに5組購入しました。
この組立てを下記にて行います。会員の方で、ご協力いただける方は、是非ご参加をお願いします。
日時 2月24日(日曜日) 9:00~17:00(都合のつく時間だけでも結構です)
場所 加住市民センター (材料や道具等は会で用意します)

(3)『滝山甲冑隊がご案内「滝山城跡見学会」 滝山城・新遺構説明板完成1周年記念』にご協力ください

当会主催の滝山城跡見学会を下記の通り実施します。会員の方には当日のご協力をお願いします。
日時 平成25年3月31日(日) 10時~15時 (会員は9時集合)
参加会費200円(資料代・保険代) 募集人員80名(予約不要・当日先着順)
午前9時30分から道の駅八王子滝山第2駐車場で受付開始(小雨決行・荒天中止)

(4)出版のご案内

次の2冊の本が近日刊行される予定です。いずれも当会会員の著書ですので、是非お読みください。

伊達正宗の戦闘部隊 -戦う百姓たちの合戦史-
『武装した百姓、郷村の地頭、そして傭兵たちが戦場の主役だった!』
著者: 中田正光(当会会員・城郭研究家) 洋泉社歴史新書 本体900円+税

豊臣家 最後の姫 -東慶寺中興の祖・天秀尼の数奇な運命-
『今から四百年ほど前、大阪落城により八歳の姫がひっそりと落ち延びていった...』
著者: 三池純正(当会会員・歴史研究家) 洋泉社(単行本) 本体1910円+税

NPO法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会 会報 「滝山だより」 第6号

発行日 平成25年2月1日

発行者 NPO法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会

理事長 西山富保 (連絡先 携帯 090-4390-7831)

編集 高橋 努

滝山城跡群・自然と歴史を守る会 ホームページ <http://takiyamajo.com/>

滝山だより

よみがえる滝山城

NPO法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会
会報 第6号 平成25年2月1日発行

平成24年10月~12月度の活動

1. 定例活動

日付	時間	実施場所
10/21(日)	9:30~15:00	大池堤防周辺
11/18(日)	9:30~15:00	弁天池周辺
12/16(日)	9:30~15:00	大池堤防周辺

2. 滝山城跡ボランティア・ガイド

日付	内容	主催または依頼者	参加者
11/2(金)	滝山城跡見学のガイド	八王子市立加住小中学校・中学部1年生	27名
11/4(日)	滝山城跡見学のガイド(自然体験講座)	八王子市北部地区環境市民会議	24名
12/20(木)	滝山城跡見学のガイド	八王子市立高嶺小学校6年生	17名
12/23(日)	滝山城跡見学のガイド(戦国時代の名城滝山城跡めぐり)	東京都建設局公園緑地部管理課(公財)東京都公園協会・小宮公園サービスセンター	54名

3. 城郭学習会

今年6月の第1回城郭学習会で、天神山城跡（埼玉県長瀬町）に池跡の存在を確認しました。中田理事はこの池を「領主が領民の農作のために造った『勸農の池』ではないか。」と推定しました。そこで、今回の第2回城郭学習会は、領主と農民との関係が『色部氏文書』として残る色部氏の居城・平林城を訪問し、領主が勸農のために築いた池や堤を調査することにしました。今回の城郭学習会は遠方のため10月27日（土）から1泊2日の行程で、与板城跡、上関城跡、新潟県立歴史博物館も訪問しました。

(1) 平林城跡(新潟県村上市)

平林城跡は新潟県村上市に残る中世城郭です。平林城の城主であった色部氏は上杉謙信に仕えていました。色部氏の年中行事として残る文書には、領主は領民のために『溝・堤・池を築き固める』こと、領民は領主に『年貢を滞りなく納める』ことを正月三日の夜に誓います。今回の城郭学習会は、平林城跡にこの文書に書かれた『溝・堤・池』を調査・確認することにしました。

吉書の儀において青龍寺(僧侶)が読み上げる文書

- 一 先可奉崇神社仏寺等事 (まず神社仏寺などを崇め奉るべき事: 信仰)
- 一 可築固溝池堤事 (溝、池、堤を築き固むべき事: 勸農)
- 一 不可為御年貢以下雑米等未進事 (御年貢以下雑米など未進なすべからざる事: 年貢)

正月三日の夜に、平林城の殿屋敷に御館様（色部氏領主）と家臣、青龍寺（弥彦山麓石瀬にある青龍寺の僧侶）、百姓の代表が集まる。まず、領主が青龍寺に三度の礼をして冷酒を勧める。二献目は燗酒と雑煮が供され、三献目に百姓たちが化粧桶の酒と塩引の酒肴を出すと「吉書の儀」（在地支配根幹の誓約儀式）となり青龍寺が吉書を読み上げる。ここまでの主役は青龍寺であり、ここからは御館様が主役となる。御館様が冷酒を飲み青龍寺にも勧める。そして家臣や百姓衆にも酒が振る舞われる。



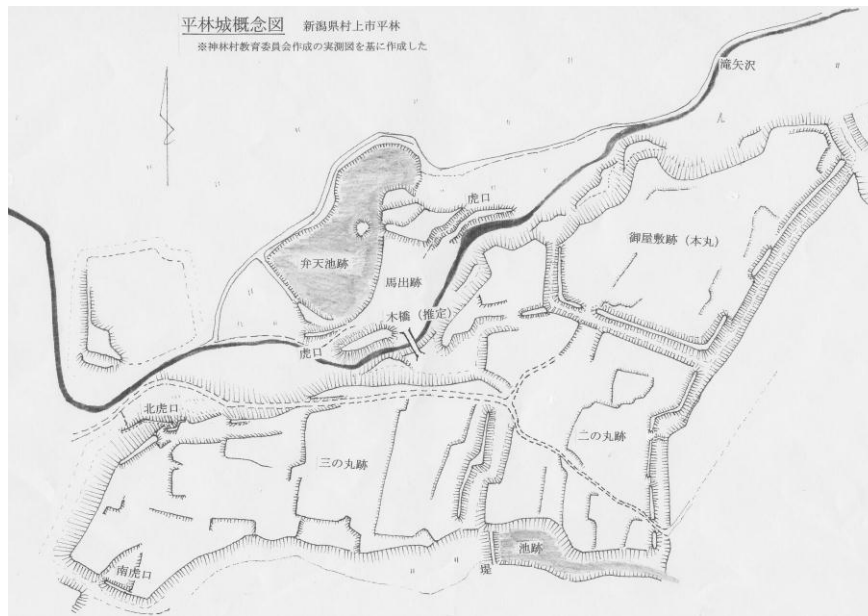
平林城の三の丸の西土塁 この周囲は水堀であったと考えられる



本丸(左)と二の丸(右)の間の空堀
本丸側の土塁が良好に残っている



大手虎口（弁天虎口）の内枳形



平林城概念図（中田正光氏が神林村教育委員会の実測図を基に作成）
平林城の水堀の役割を果たす「滝矢川」、北の「弁天池」、南の「壁の内つつみ」は吉書にいう「溝・池・堤」として領民の農地を潤す「勸農」の用水として利用されていた。



馬出から見る弁天池跡
線で囲んだ部分が弁天島跡



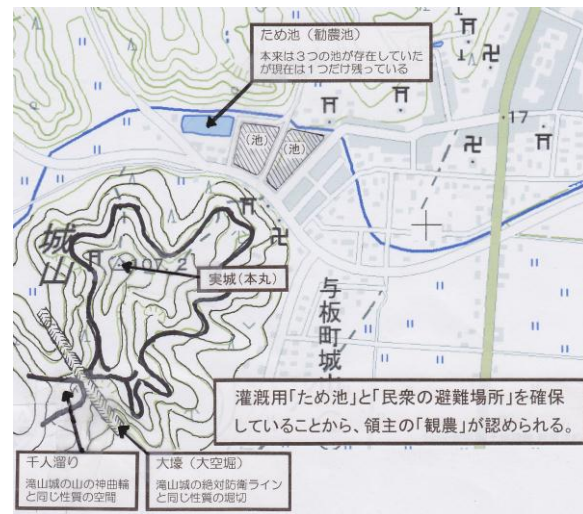
中田理事が立つ馬出しから横矢川を挟んで対岸にある弁天虎口に木橋が架かっていたと推定される



吉書の儀の様子
正面に清龍寺と領主、両側に家臣が座る。縁側には百姓衆が並ぶ。(新潟県立歴史博物館の解説アニメーションより)

(2) 与板城跡(新潟県長岡市)

与板城跡（新潟県長岡市）は、大河ドラマ「天地人」で一躍有名になった、直江兼続の居城です。山麓には、「堤下」という地名が残り、解説板には『かつてはここに3つの池があった』とあります。池は1つだけ現存していますが、その配置からすると、これらは領民に対する『勸農の池』と考えられます。また、本丸の先、大堀切を越えた再奥部に「千人溜り」という広大な曲輪があります。この曲輪は滝山城跡の「山の神曲輪」とよく似た構造であり、非戦闘員の避難・収容場所であったと考えられます。



与板城跡と勸農池



「堤下」の地名が残る



本丸（奥に土塁が残る）



現存する池は想像以上の大きさ



「中越を一望に収める」という
本丸からの雄大な眺望



戦などの非常時に村人などの非戦闘要員を避難・収容したともいわれる千人溜り

(3) 上関城跡(新潟県関川村)

宿泊地の高瀬温泉近くにある上関城跡の訪問は日没時でした。『城跡は荒川を背後に、南と西は堀と土塁で囲み、西に虎口を開いた本丸を中心に、西側前面に広い二の丸、南側に三の丸、さらにその南側に第四郭を配置し、これらはいずれも整然とした堀と土塁によって守られている。特に本丸虎口への鉤型の土塁と土橋は近世城郭の外枳形の備えであり、規模は小さいが貴重な遺構である。』（『村上市史』）



二の丸横に立つ城跡碑



本丸から空堀越しに三の丸を観察



上関城縄張図『村上市史』より

(4) 新潟県立歴史博物館

新潟県立歴史博物館では学芸員の方に解説をしていただきました。色部氏の行事に出された食事の再現展示や色部氏の年中行事などが展示されていて、今回の城郭学習会の締めくくりにふさわしい内容でした。



新潟県立歴史博物館入口



学芸員の方の解説



色部氏に関する展示物